

令和 6 年 2 月 21 日 議会のあり方調査研究特別委員会議事録
11時42分 開会

○出席委員 (8 人)

委員長 寺岡 公章

副委員長 末広 天佑

委員 豊川 和也、山代 英資、岡 和明、小出 哲義、
小田上尚典、細川 雅子

議長 北地 範久

○欠席委員 なし

○傍聴者 藤川 和弘、中川 智之、西村 一啓

○寺岡委員長 では、皆さんおそろいいただいておりますので、議会のあり方調査研究特別委員会を開会します。

主には政務活動費なんですが、申合せ事項についてなども議題としております。これの進行は末広副委員長、末広チーフにお任せしたいと思います。よろしくお願いします。

○末広副委員長 引き続き、政務活動費について進めさせていただこうと思います。担当の末広です。よろしくお願いいたします。

午後をスムーズに進められるように、流れだけ午前中説明させていただければと思います。

何点か私に宿題をいただいていたので、政務活動費に関する資料に 2 つ掲載させていただいています。まず最初に、議事日程 1 の政務活動費についてのところで、見直し理由（案）というのを掲載させていただいてと思います。宿題でいただいていた、実際どうお願いするかという文章と、あとモデルを記載させていただいています。

政務活動費を報酬審議会に上げていただく今後の流れなんですけども、見直しの理由（案）を皆さんで議論して直すところは直して、これを今度は委員長から議長に上げていただきます。議長が、これを議員全体に知らせるべきかどうかというのを判断していただいて、議会運営委員会に諮るなりは議長が判断していただいて、それを議長が市長に報酬審議会の設置のお願いとして上げていただくという流れになります。

午後は 1 時から、この見直し理由（案）について、皆さんの力を借りてブラッシュアップさせていければと思いますので、午後 1 時までにはちょっと目を通していただければなと思います。日程 1 は以上です。

日程 2 の申合せ事項のところは、こちら私宿題いただいて、まずアンケートの中から申合せ事項、使い方をどうしていくか、不満があるところを抽出して、いろんな自治体の例を見ながら、赤字で私がこういうところが多いよというのを書いてます。その下にいろんな自治体の例を挙げさせていただいています。今後どうしていくかというのを午後に話し合っ、方向性を決めて、次に、申合せ事項をどう変更していくかというのをまた宿題にさせていただいて、次で決定していければいいかなと思います。それを議会運営委員会

に諮る形になると思います。

午後の流れは以上になりますので、資料に目を通していただいて、午後に議論させていただければと思います。よろしくお願いいたします。

委員長。

○寺岡委員長 政務活動費見直しの理由について、この後、案が取れていくような協議を皆さんでしてくださると思うんですが、取れた後の出来上がったものをどのタイミングでどのように使うのかだけ御紹介をいただければ、そしたらどういうふうの中身を決めていくかが分かると思いますので、お願いします。報酬審議会が立ち上がる前にこれを出すということですか。

○末広副委員長 そうです。

報酬審議会が立ち上がる前に、議長から添付資料として見直しの理由と合わせて、市長にお願いしていただくという形になります。

○寺岡委員長 分かりました。

○末広副委員長 小田上委員。

○小田上委員 確認なんですけど、報酬審議会を開催して行ってほしい理由がこれですというがこの（案）でことですね。

○末広副委員長 そうです。

○小田上委員 なので、議長が市長に対して報酬審議会を開催してください、その理由はこれですというものをこれからつくっていくことですね。なのでこれが理由書として市長のほうに渡ると考えていいですね。

○末広副委員長 はい、大丈夫です。

これと報酬審議会を開いていただく申入書みたいなのに、この理由書を添付して、市長に出していただくという形になると思います。

ほかに何か。

細川委員。

○細川委員 ちょっとこれは特別委員会として行き過ぎだとは思いますが、それを頭に入れて聞いてください。

今の流れの中で議長にお渡しすると。ただ、議長は多分、議会運営委員会なりそうだったので、やっぱり皆さんの議会全体の意識が固まるような動きをしていただくと私たちは思ってたて大丈夫ということでしょうかね。

○末広副委員長 すみません、私がそこを議長とお話をしてないので、また、午後進めさせていただければと思います。

ほかに何かある方いらっしゃいますか。

午後に向けて目を通していただければと思いますので、午前中は以上にとしたいと思います。ありがとうございました。

○寺岡委員長 では、議事の都合により暫時休憩します。午後 1 時再開で休憩します。

11時50分 休憩

13時00分 再開

○寺岡委員長 それでは定刻になりました。休憩前に引き続き会議を開きます。

末広チーフ、続いてよろしくお願いします。

○末広副委員長 引き続き、よろしくお願いいたします。

議事日程に従って、日程 1 の政務活動費について話合いができればと思います。

午前中説明させていただいた、資料を掲載しています。理由としてふさわしいかどうか委員会でも議論し、委員長から議長に上げていただくという流れです。それを議長が却下する可能性も十分あるんですけど、まず理由としてふさわしいかどうかを話し合えればと思います。

文言もそうですし、もうちょっとこういった視点が必要じゃないかとか、そういう視点で話し合えればと思ってます。出てきたものを、また私が文書にしてきて、それをまた皆さんで議論し合う形にしようと思いますので、まずこの中で感じたことを言っていただければと思います。

何かある方いらっしゃいますか。

小田上委員。

○小田上委員 案を作っていてありがとうございます。大まかにはいいかなと思うんですが、ちょっと気になる点、まず 1 点だけ。

中段以降です。現代の議会活動においてはというところなんですけど、政務活動費の見直しというところで議員の活動に触れてきてる中で、議会活動となってるので、確かに議会でももちろんなんですけど、議員の活動なのかなと。あえてここを議会活動にされたところの理由を聞きたいなと思います。この前段にかけらんだったら議員活動でもいいかなと思いました。

○末広副委員長 ここに強い思いがあるわけではないので参考にさせていただきます。

ほかに何かある方いらっしゃいますか。

細川委員。

○細川委員 案を作っていてありがとうございます。とても分かりやすいんですけども、ちょっと引っかかったのが 1 行目。私たち地方議会の一員として、大切な使命です。ちょっとこれ日本語としても分かりにくいところがあるんですけど、言いたいのはそこじゃなくて、地域の発展と市民の皆様の幸せを追求することは、私たちの大切な使命ですとなっているんですけども、ここを地域の発展と市民の福祉の向上ではないかと思うんですけど。私なら、福祉の向上にするかなと思ったので、ちょっとそこら辺何かこだわりがあるんなら教えていただければと思います。

○末広副委員長 すみません、ここにも強いこだわりがあるわけではないので、ここに関して福祉という形で細川委員から意見いただきましたけど、ほかに何かあれば御意見いただければと思うんですが。

もしなければ、文章を直して、次のときに持ってこられればと思います。ありがとうございます。

ほかに何かある方いらっしゃいますか。

細川委員。

○細川委員 次の行なんですけど、市民の皆様の声に耳を傾け、望ましい政策を提案し、実行すると書いてあるんですけど、3つ目の実行するはなくてもいいのかなという気がします。実行するのは私たち議員じゃなくて、執行部かと思うんですよ。これ何か勘違いされるような気もするんですけど、これは皆さんどう思われるかなと思って。

○末広副委員長 小田上委員。

○小田上委員 細川委員が言われるとおり、実行じゃなくて、例えば言い換えるとしたら、実現とかなのかなと思います。ただ、実現というのでも適切かどうか分からないので、ほかの方の意見を伺いたいんですが。それプラス、これ政策の提言しかないんですけど、議案の審査のために対しても政務活動費使って調査活動あると思うので、この政策提言だけになってるところはちょっと改善したほうがいいかなと思います。議案審査とかというところの過程ですね。

○末広副委員長 直させていただきますが、これに関して御意見ある方いらっしゃいますか。
小田上委員。

○小田上委員 どこまでを言うかというのは、すごい個人の尺度になるかもしれないんですけど。次の行で、リソースとかあるじゃないですか。最近よく言うエビデンスとか、ああいう片仮名英語になってるものをどこまで使うかということも、少し考えたほうがいいのかなと。スキルアップとかコミュニケーションってもう浸透してるような気がするんですけど、じゃどこで線引きするのかというのがあるので。なるべく片仮名を使わないほうが、誰が読んでも分かるのかなと思いました。これもほかの方の意見を聞きたいです。

○末広副委員長 リソースだと資源とかに置き直すことになると思うんですけども。特にそれに関して違和感はないと思うんですが、分かりづらい文言とか、このリソースぐらいですかね。

何か意見ある方いらっしゃいますか。

細川委員。

○細川委員 私も今の小田上委員の御意見には賛成なんですけども、私たちがこういう思いで政務活動費について提案させてもらいましたという理由ですよね。それは一般の市民の方に理解してもらえるようにということだと思うんですね。そうすると、やっぱり分かりやすい文言にしたほうがいいかなと思います。

それで、今読んで思うんですけど、ウェブサイトの運営って、もう置き換えできないですか。

○末広副委員長 小田上委員。

○小田上委員 大前提として、よく使われるホームページという言葉があると思うんですけど、ホームページって本来ホームページじゃないんですよ。市議会のホームページ見てくださいとか、市のホームページ見てくださいって違うんです。正しくはウェブサイトなんですね。ホームページって、一番最初インターネットを見るときに出てくる一番最初の画面をホームページと本来言うはずなんですけど。これも分かっている人は分かるけど、分からない人は分からないというところではあるんですけど、ホームページの運営というよりも、ウェブサイトの運営のほうが適切かなと思います。ただ、これがウェブサイトって書かれ

ると、ホームページとかあいうインターネットを見て、見るものだというのが分からない人もいられるかもと言われると、変える言葉がもうホームページにしか思い浮かばない。ただ、適切ではない気がします。

○末広副委員長 ウェブサイトってなると、例えば、政治関係の政治家を情報集めたサイトとかに登録して、利用料を払ってるような事例がありますけども、それをホームページって言われるかと言われると、確かに違和感がありますね。

小田上委員。

○小田上委員 前後の文章があるのでこれが適切か分かりませんが、SNSなどインターネットを通じたという文言にしておけば、理解は得られるかもしれないですね。ウェブサイトという言葉の認知度がどうなのかというのが、正直よく分からないんですけど。であれば、SNS等のインターネットを通じた情報発信が欠かせませんとかのほうが分かりやすいかもしれません。

○末広副委員長 インターネットでまとめること自体もいいとは思いますが、具体的に、こういうサービスを今通じて情報発信してますよというところをいうのも、一つ例としてあるんじゃないかなと思うんですが、いかがですかね。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、こんな細かいことをずっと上げてても大丈夫なんですか。

○末広副委員長 もうこれを理由書として上げるので、細かいところを詰めるのは間違いじゃないのかなと思いますけども。

○小田上委員 分かりました。

チーフがどういう想像をされてるか分かりませんが、ウェブサイトの運営というのは、政務活動費の話なので、議員個人の活動に当たると思うんですね。であれば、議員個人のホームページの運営とすれば、理解してもらえるかもしれないですけど、そこまで丁寧に書く必要があるのか。別に個人のホームページを持ってない方もおられますし、そこに触れる必要が細かくあるのかといわれると疑問はあります。インターネットでまとめているのかなと。

○末広副委員長 じゃ、もうインターネットでまとめることにしようと思うんですが、それに対して何か御意見があれば。

じゃ、もうここはちょっとインターネットサービスでまとめさせていただきます。

細川委員。

○細川委員 今のこの一文で、SNSを通じた情報発信が欠かせませんとあるんですけど、この段落は、広報広聴活動が今こうなってますよというのを言ってるんですね。情報発信じゃなくて情報の送受信とか、交換とか、一方通行で発信だけじゃないと思うんですよ。ということで、この情報発信を何か受信もできるような言葉に直したほうがいいんじゃないかなと思います。

○末広副委員長 ほかにある方いらっしゃいますか。

小田上委員。

○小田上委員 次の段落の、現代の議会活動においては、インターネット環境や情報端末の

整備、ＡＩなどの最新技術の活用が求められていますとありますが、みんな思ってますか。さらに求められるようになってるということだったらいいかもしれないですけど。デジタルにすごい行っちゃってるかなと。政務活動費を増やしたいよね、ちょっと足りないよねみたいな話になってる大前提として、現場に行って研修を受けたいとか、結構アナログな要素をやるために費用がかかるよねというのもあったと思うんですね。なので、結構これを見ると、アナログ的なところじゃなくて、デジタル的なことばかりになっちゃってるんで、もうちょっと両方あるほうが、インターネットなくてもできるぜって思ってる人には全く響かないというか、理解してもらえないのかなと思いました。

○末広副委員長 前々の段落のところで、アナログ的な研修のところは入れてますけど、ここの議会活動のところを削除するというのも一つの方法かなと思うんですけど。

細川委員。

○細川委員 議員の活動も、昔ながらの活動もちろんだけれども、今はインターネットとかいろんな環境がすごく変わってるんで、そういうことで、さらに質のよいというか、議員活動ができるようになってるねというのは、皆さんも生活実感としていろいろ感じてるところだと思うんです。だから、削除はしなくても何かさらにこれによって、よりよい議員活動ができるような環境が整ってますよねみたいな文章になると、理解もしていただけるんじゃないかと思うんですけどね。ちょっとこれ削除するのはもったいないし。何かうまく載せられないかなと。もうリーダーの力量を期待したいと思います。

○末広副委員長 そこはちょっと宿題にさせていただきます。

モデルも一番下に書かせていただいているんですけども、極端な数字を弾いて、平均したものにとちょっと手を加えたものにはなるんですが、これに関してはいかがですか。

小田上委員。

○小田上委員 今説明があった平均値にちょっと加筆した、その加筆の方向性も知りたいなと。注釈的にはあってほしいですし、前回のときにも言いました、研修によく行ってるタイプで、情報発信とか印刷物とかそういうものによく使ってるタイプとかのタイプ分け何パターンかあって、やっぱりどのパターンを見ても足りてないよねという現状ですよじゃないと、これ１個だけ見て足りませんと。そりゃこの人は足りてないんでしょうみたいな感じになるんじゃないかなと。何パターンかのモデルを出してみても、こういう傾向があるけどやっぱりどのタイプでも最低限やろうと思ったら不足してるかもねとならないかなと思いました。

○末広副委員長 広報・広聴特化型、研修特化型など、それを比較しながらという資料は作れますが、それに関していかがですか、ほかの委員の皆さん。

どういうモデルかという理由は必要だと思います。

細川委員。

○細川委員 いろんなパターンの活動があるんで、パターン化して３つぐらいにするか、もしくは１つで行くんだったら、それぞれの根拠をもうちょっと書かないと、理解が難しいかなと思いつつながら、ここを読みました。

○末広副委員長 では今ご意見いただいたんで、また私が作成してこようと思います。何か

ほかにこうしたほうがいいよというものが、あれば参考にさせていただければと思うんですけども。

細川委員。

○細川委員 例えばパターン化するんだったら、どういうパターンが考えられるかと皆さんから聞いておいたほうが作りやすくないですか。

○末広副委員長 ありがとうございます。

それに関してもうちちょっと自分と照らし合わせてみてもいいと思うんですけども。

豊川委員。

○豊川委員 自分のパターンでいけば、私、本とか一切読まないんですよ。なので、資料購入費はゼロに近いのかなとは思いますが。でも、その代わり、よく現場に視察とか行かせていただいているので、調査研究費は資料のモデルの2倍ぐらいはかかるかなと思っております。以上です。

○末広副委員長 小田上委員。

○小田上委員 今、文章化、言語化、表にして作成頂いたものの根拠が、今のところアンケートしかないの、こうなっていると思うんですね。アンケートだけに縛られてもよくないんじゃないかという話は、この委員会の中で前々からあったので、今の豊川委員の発言があったとおり、自分だったらこうだねというモデルケースをこの場の中で作っていく。別に委員会の中じゃなくてもいいですけど、委員でこういうモデルがいいよね、こういうパターンがあるんじゃないかというところは話し合う必要があると思います。アンケートを参考にしながら極端な数字にならないようにというのはもちろんですけど、あまりにもアンケートに頼り過ぎる。あとは何でしょう、根拠に乏しいというか。経験値もない、まだ申請して通ったことがない、使われたことがない、オーケーをもらってない議員もおられるし、それは会派の中で話を聞きながらとかというところで、もう一度持ち寄って、委員会のメンバーでモデルを作るという作業があってもいいのかなと思います。これだけ要りますと言われても、いつどんだけ話して、これだけ要るってなったんだろうと市民は思うと思います。

○末広副委員長 ちょっと進め方として、どうしていくべきかというのが悩ましいところにあります。例えば、宿題にさせていただいて、会派でまとめていただくというのも一つの方法だとは思いますが。それを持ち寄ってどうまとめるか。そうですね。それをまたアンケートというか、こちらにデータを収集させていただいて、こういうモデルがありますよというのをここで取りまとめて発表させていただいてという形ですか。進め方をどうするのかなというところが悩ましいところではあるんですけど。

山代委員。

○山代委員 すみません、新人議員の出したアンケートはちょっと精査が必要だとは思いますが、それ以前の議員の方々は、ほぼニア・イコール、プラス自分の欲しいプラスアルファという部分で書かれてると思います。ですから、それらをパターン化、振り分け、研修費が多めな人はこれ、資料作成するのが多い人はこれと分けた状態で抽出して、それぞれを組み立てていくというのが一番モデル化しやすいんじゃないかなとは思いますが、ど

うでしょうか。

○末広副委員長 ありがとうございます。

それについて、ほかに意見がある方いらっしゃいますか。

小田上委員。

○小田上委員 1期目の議員以外の意見をパターン化するということですか。ごめんなさい、もう一回教えてください。

○山代委員 1期目の議員も、根拠はないですけど、べらぼうな数字を出してるわけではないので、1期目の議員は参考程度でとどめるという形にしておいて、それ以外の方々のそれぞれ出してきたものをパターン振り分けた後に平均値を取るなり、金額を策定するという方法を取られたらいいのかなと思ってます。

○末広副委員長 アンケートでは自分の希望として集めさせていただいてるんですけども、それはまた置いといて新しくモデル作るわけじゃない。

山代委員。

○山代委員 それを活用すればいいと思います。新たにもう一度というのは、あまり意味がないかなと考えます。

○末広副委員長 そうなると、アンケートを基にもう何パターンか私がモデル作ってきて、それについて話し合うみたいな形の進め方になっちゃうかなと思うんですけど。

小出委員。

○小出委員 私も山代委員と意見は同じところがあるんですが。せっかくアンケートを取って、これまでの議員経験のある方は、それなりの経験を踏まえた上での実績であるとか希望をアンケートに書いたわけですし。新人議員としても、これぐらいの活動はしたいよ、できるんじゃないかという数字を盛り込んだわけですから。改めてアンケートを取るというのは必要ないと思います。集計の仕方を何パターンか作るというのであれば、平均値って決して悪いことじゃないと思うんですけど、全体としての平均を取るか、パターン化してから、確かにどのパターンを取ってみても、これは足らないから、じゃその足らない分のどれぐらい増額を希望するのかという持っていく方するのか。その辺、そういうふうにしてはどうかなと思うんですよね。

○末広副委員長 アンケート集計したものを1期目と2期目以降の議員と分けて、それで広報が強いなり、研修が強いなりでジャンル分けして、モデル化をこちらでさせていただいて、それについて話し合うという形を取ろうと思うのですが、いかがですか。

細川委員。

○細川委員 今、前回のアンケートを見てるんですけど、議員番号しか書いてないんで、どなたが1期目の方で、2期目の方かって分かんないんですけど、別に分けなくてもいいと思います。これを見ると、調査研究と研修費の比重が大きいパターンと、広報にすごくお金を使いたいという方と、資料購入とか作成にしっかりお金を使いたい方。これ見ただけで3つぐらいあるかなという感じなんで。1期目の皆さんやっぱり分けたほうがいいと思いますか。これ一緒でもいいようにも思うんです。意外とバランスよくできてるようにも思いますから、別に分けなくても、ここを基にして幾つかのパターンを作れるようにも思

います。

○末広副委員長 小田上委員。

○小田上委員 どの費目にするかも含めて、多分、新人の方って経験がないので、この費目で合ってるのかなというところもありつつの金額なんだろうと思います。なので、僕はこのアンケートの中だけでやりたくないんですよ。この費目ってこっちじゃないつけというのをある程度話合いながら、例えばチーフが作ってくれて、これの中身ってこういうのに使えるよねという話もしながらじゃないと難しいかなと思います。

例えば、3パターンあって、金額が今の上限よりも超えてるのが1パターンだけで、ほかの2パターンが超えてなくても、僕はいいと思うんですよ。全部使わないといけなわけじゃないですから。もうちょっと中身の話をしないと、このアンケートを見ただけじゃ、自分たちだったらこの費目で何をするかというのは分からないでしょう。研修費に欲しいと言ってるけど、大竹から毎日のように広島に調べものしに行きたいという人の交通費なのか、1回、北海道、東京とかに行って、何泊かしてやりたいという人の活動なのかというのが全然分からないんで、もうちょっとやらないとこのアンケートだけを見ると非常に危ない気がするなと。急がないといけないうのものもあるかもしれないですけど。

あとこの全体の理由に、以前、豊川委員とかよく触れられてますけど、今後の議員の成り手のためにも増やしておかないと、このままではつらいよというのは、触れたほうがいいのかなと思いました。

今出てるものだと薄いんで、別にこれが何なのという話ですけど。じゃほか出てきたアンケートをまとめるだけでこれですと言って、中身何するのと言われて、僕らが説明できますかもあるんで、もうちょっとやったほうがいいかなと。

○末広副委員長 小田上委員。

○小田上委員 すみません、何度も。

提案があります。1期目の方もおられますので、先ほど細川委員が言われた、広報型、資料型、研修型、この3パターンをそれぞれ会派ごとで考えてパターンを出してもらって、結局、この委員会で方向性を決めるにしても、政務活動費は議員15人全員、議席でいけば16人に関わることなので、会派でほかの議員の声も聞きながら、それぞれの方の思いがあるというのは分かりましたけど、理想形のモデルはどうなのか。その話をする中で、この費目はこうという説明があって、これ何するのと言われてたら、これで何したいんです、これで何してるつもりですってそれぞれ言えないといけないと思うんで、そこは深めたほうがいいかなと思います。

○末広副委員長 山代委員。

○山代委員 会派ごとに、3パターンいろいろ出すとおっしゃられたんですけど、多分会派は人数少ないじゃないですか。そのパターンにはまらない会派も多分当然あると思うんですよ。となると、想像でしか物が言えないという部分が出てくると思います。ですから、講習に行きたい議員がいない会派は、どれぐらい講習に行く頻度が普通なのかというのがちょっと分からないというところもあるでしょうし。であるならば今あるパターン、モデルの内訳を出してみても、実は研修でこれぐらいいるんですよと、交通費含めてというのを土

台に出したときに、みんながいやいやこれじゃ少ないと思うよ、多いと思うよ。いや、これもう2回ぐらい行きたいから、この金額は上げたほうがいいんじゃないかという話の仕方をしたほうが、結局は早いような気がします。

○末広副委員長 小田上委員。

○小田上委員 すみません、意見を全面的にじゃないですけど修正します。

山代委員の言われるとおりにかなと思うのと、あとモデル化ってすごい自分の中での経験とかだと思うので、難しいというのはおっしゃるとおりで。この案の中で、資料の説得力不足なところが一番なんですよね。なので、例えばですけど、この調査研究費5万円の内訳。研修何回とかというものの内訳が出てて、この委員の中で、そんなに行けるとか、これは妥当だよねということになれば、モデルは多数作らずとも、内訳の中の話をここでできればいいのかなと思いました。なので、この金額で、1人の議員が本当にこれだけの活動ができるのかという、内訳、モデルを深めないといけないと思いました。

○末広副委員長 実際使われたものを調査してって話ですね。山代委員のは。

○山代委員 実際必要なものを調査してという意味ではなくて、実際に必要だったプラス、本来だったら行きたかった、行けなかったという部分も加味した金額になろうかと思います。

○末広副委員長 細川委員。

○細川委員 私は、モデル1パターンというのはあんまり賛成しかねるんですけどね。モデル一つにしちゃうと、議員というのはこういうふうな活動をするもんだみたいになっちゃうんで。むしろ、議員によってはこの辺に力を入れてる人もいるみたいに、やっぱり3つ、4つ、説得力のあるモデルを作るにしても、幾つかのパターンあったほうがいいと思います。

○末広副委員長 小田上委員。

○小田上委員 アンケートを基に3パターン、例えばチーフが作られて、こんなパターンありましたと。その中の項目ですよ。それが妥当かという話をこの委員の中でやっていて、その中で多分金額の微修正とか、現実こんなの無理だろうとかというのが出てくると思うので、中身の正当性とか現実的かどうかという話をここでできれば、実際提出するときも自信を持って議員はこういうパターンが、まあほかもあるでしょうが、3パターン考えた中でやっぱり活動がありますよという説明もできるし、自分たちも頭の中の整理がしっかりとできるんじゃないかなと思いましたがいかがですか。

○末広副委員長 山代委員、ありますか。

○山代委員 若干、小田上委員の考えとは違うんですけど、研修費であったり、資料作成費であったり、それぞれの内訳をざっと出しますよと。その中からパターンを決めればいいと思うんですよ。こっちは多く取るけど、私はこっちを取らないという人もいれば、均等にするパターンもあるでしょうし。その幅を持った中で、内訳が出れば、この内訳は絶対必要ですよというものをずつつ抜いて、パターン化していくというのはどうでしょうか。

○末広副委員長 費目を具体的に洗い出して、私がパターン化したものを作成して、議論し合うっていうのはできることではあるんですけども。妥当かどうかはもうやってみないと

分かんないですかね。やってみましょうか。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、確認なんですけど。今、山代委員が言われたのって、例えば、研修1回5万円、広報1回1万円みたいなやつがあって、自分だったら研修4回行きたいから、20万円。残りあと広報活動も3回ぐらいやりたいから3万円で、資料もという積み上げ方式をやってくってことですか。メニューがあって、そのメニューをトッピングしていったら、結局この金額になりますねなのか。

○末広副委員長 山代委員。

○山代委員 基本的にそういう考えで問題ないと思いますけど、東京に研修に行く金額と、福岡に講習に行く金額で違うと思いますので、金額のそれぞれの内訳というのは、多分、チーフが1人で考えるとするとすごい手間がかかると思うんで、そこはもう話し合いで、ここに何回とかいうのはざっくり出してしまったほうが、早いんじゃないかなとは思うんですけれども。

○末広副委員長 ここで話し合うよりは、私がやってきたほうが多分まとまりやすいかなとは思うんですけど。それはもちろん事務局とも相談しながらにはなるんですが。多分ここで話し合うと、まとまらないかなと思ったりはするんですけど、いかがですかね。

なかなか收拾がつかなくなってきたところはあるんですが、私としては、トッピング方式で、もうちょっと具体的に費目を交通費、研修の講習費と、そこら辺をもうちょっと具体的に、モデルを作ってきて、それについて話し合うという形ですかね。

じゃ、その形を取らせていただこうと思います。

また戻って恐縮なんですけど、文章のところは今までいただいた意見で、文章を作り直して、委員長と話し合って文章作成したいと思いますので、それはまた私の宿題とさせていただきます。

ほかに今言いたいことがあれば受け付けますけども、大丈夫ですか。

小田上委員。

○小田上委員 大前提なんですけど、こういう理由という書き方でオーケーなものなんですか。最終的にこれで議長から議会運営委員会に行ってとか、最終的に市長にという流れの中で、こんな書き方じゃ駄目だよと言われたらあれなんで。形式としてこれで大丈夫なんですよ。

○末広副委員長 前回の報酬審議会開催時は、そういう理由書とかついてないんです。ただ一般的には、申入れの中になぜ上げてほしいかという理由書をつけて、報酬審議会の設置のお願いをするという話だったので、そこに何かフォーマットみたいのがあるわけじゃないんですね。理由としてふさわしいかどうかというのをこの委員会で決めなきゃいけないと思うので、その根本的にこれじゃ理由、根拠として薄いよねと言われたら、作り直さなきゃいけない話になります。

委員長。

○寺岡委員長 かがみ文はつきます。それは当然だと思います。そこは議長名で出すようになるんですけど、議会の中で協議をした結果、報酬審議会設置をお願いしたいといったも

のはつけて、別紙の理由のとおりとなるんじゃないかと思います。

○末広副委員長 山代委員。

○山代委員 私も稟議書しか書いたことがないんでよく分からないんですけど、一般企業でいうと稟議書を書くんですが、その場合は金額を上げてくださいますので、効果を絶対書かないといけません。金額がこれだけ上がるから、どれだけの効果が見込めますと。その部分を議員活動で当てはめた場合は、どういう書き方がふさわしいのかが全く見えないんであれですけど、そこら辺はなくても大丈夫なものでしょうか。

○末広副委員長 いかがですか。確かにその効果をしっかり書いたほうが、理由書としてはふさわしいとは思いますが、それが難しいのであればお願いという形で出すしかないと思うんです。ただ、その効果を例えば具体的に数字にして出すとか難しいです。小出委員。

○小出委員 この文書を通して、期待される効果的なことも書き込まれてると思うので、特にフォーマットがないということであれば、この理由書で効果までを含めたものとして考えていいんじゃないかなと思います。期待される効果というのはなかなか難しいと思うんですけど。

○末広副委員長 ほかに御意見ありますでしょうか。

小田上委員。

○小田上委員 政務活動費なんで、議員が目的を持って議員活動をしていく中で使うものなので、得たい効果というのは多分それぞれ議員によって違うんだろうと思います。なので、ここでこういう効果が見込めますと羅列はできると思うんですけど、羅列することにどれだけの意味があるのかというのは分からないなと思います。

小出委員の言われたとおり、今こういうことができない、できればまだよくなるんだよという思いは入ってる。それぞれこういうことをやっていきたいというのも書いてあるので、できるようになるから、理由書（案）の地域の発展と市民の幸せをとという部分。どういう効果は別にして、その効果があるから、結果こうなることに頑張ってる、そこが増進されるようにというところでもいいんじゃないかなと思います。

○末広副委員長 細川委員。

○細川委員 大体、小出委員、小田上委員に賛成なんですけど、この理由の1段落目の一番最後、「特に、政務活動の多様性と範囲が広がる中で、現在の予算では十分に対応できないと感じております。」の文章を、現在の予算を上げていただくことで、政務活動の多様性と範囲がより広がっていく効果がありますというふうにちょっと変えるのと、あとさっき小田上委員がこれからの成り手のために、上げておくことが必要だと考えるみたいなことを一文つけていただけると、見込まれる効果みたいなのがしっかりこの中に入ってくるかなと思います。

○末広副委員長 では、それは私の宿題にさせていただいて、またこの文書を改めて皆さんに御提示できればと思いますので、それでよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○末広副委員長 ありがとうございます。

それでは、日程 1 をこれで終わりたいと思いますが、一度休憩を挟みましょうか。
再開を 2 時にして暫時休憩いたします。よろしくお願いします。

13時53分 休憩

13時59分 再開

○末広副委員長 休憩前に引き続き始めさせていただきます。

日程 2、申合せ事項についてを上げさせていただきましたが、先ほどの話を聞いて、方向性としてモデルをもうちょっと深掘りして、費目も具体的にしながら作ってみるということで、先にそっちをやったほうが、議論が深まるんじゃないかなと思ったんですけども。ここで無理して話し合う必要があるかどうかかなんですが。先に今の政務活動費の全体像を決めてからのほうがいいかなと、さっきの会議をしてて思ったんですけど、いかがですか。

小田上委員。

○小田上委員 今、チーフの言われることも分かります。ただ、別物だと思うんです。今ある政務活動費の枠の中でどれだけ使えるようにするかというところが、申合せ事項だと思うんです。申合せ事項を変えるということは、現行の上限のまま使える、使い方が変わるということなので、例えばですけど、報酬審議会にお願いするという流れになって、報酬審議会にかかりました。いや別に上げなくてもできるでしょ、このままですよと言われた場合でも、ここの議論は必要だとは思うんです。なので、上がってほしいありきで話しちゃ駄目だけど、使える幅を広げるところでは話をしておいていいのかなとは。こういう方向にしたいんだけどといったら、これもまた議会運営委員会に諮ることになるとは思いますが。

毎回毎回確認で申し訳ないんですけど、これが例えば変わるとなったときは、どういう手順を踏んで変わっていくのかを御紹介いただけると、想像がしやすいんじゃないかなと思うんですが。

○末広副委員長 ここで話し合って申合せ事項を変えとなれば、案を作成して、今度は委員長から議会運営委員会の委員長に諮っていただくようにお願いになるんですかね。

局長お願いします。

○山田議会事務局長 確認はしますけども、基本的には議長経由という形になるかなと思います。

○末広副委員長 すみません、これは改めて確認はさせていただきます。

今言ったのが大まかな流れになるんじゃないかなと思うので、具体的には、もうちょっと調べてから、また皆さんに御提示できればと思いますので、よろしくお願いします。

今、小田上委員は、今話し合ってもいいんじゃないかとありましたけど、ここで話し合わせていただいても大丈夫ですかね。

委員長。

○寺岡委員長 一委員になるのかな。このテーマに対して、3月いっぱいぐらいめどで、4月からスタートというときのスケジューリングを、チーフのほうでどのようにさばっていくのかちょっと見えないので、そのあたりの方針がもし話ができれば伺っておきたいんで

すが。

○末広副委員長 できれば、今回ここで上げさせていただいて、次に私の宿題にさせていただいて文書を作って、次で決められたら一番いいんじゃないかなとは思ってはいるんですけど、3月がかなり忙しいので、これがまた後半に回る可能性もありますよね。もうそうなるとその1回しかできないという形になっちゃうんで、3月いっぱいまでとなると、次で決めるしかなくなっちゃうので、もう文書作ってきてそれをここで議論し合って、文書を決めて提出させていただくという形になっちゃうと思うんですが。

委員長。

○寺岡委員長 例えば、27日議員研修の日の午前中にやるとかそういったこともできるわけなので、そこら辺は幅広に考えていただけたらと思います。

○末広副委員長 基本的にはさっき言ったように、まず私のほうで、今日内容ある程度決めさせていただいて文書を作って、次に協議するという流れは変わらないと思うので、次で決定すればいいのかなとは思っています。決まらなければ、もう一回という形になると思います。できるだけ、皆さんの都合が合うときに早めにやらせていただければとは思っています。

小田上委員。

○小田上委員 スケジュールの話で、例えば、3月中にこの申合せ事項に変更がある場合に、それはいつの政務活動費の申請から効果があるのか、それによってもちよっと変わってくるかなと思うんです。政務活動費の額面は、報酬審議会にかけてもらうというスケジュールがあるので急ぐ必要もあろうかと思っています。この申合せ事項の協議は、別に急がなくていいと言ってるわけじゃないです。スケジュール感をもってほかの取組もしないといけないんで、ちゃんと区切りはないと動けないのでそれは持つとしても、ある程度、皆さんそれぞれの会派や両常任委員会の委員長としてこの委員会出てきてここにいるので、会派で今の現状どう思ってるかというのは持ってきてもらって、話し合いをしないといけないかなとは思っています。額面のことと、申し合わせのことは同時に進めないと、片方が決まってからどうこうという話でもないと思うので、会派で持ち帰る時間に配慮してもらえたらうれしいかなとは思っています。いきなり今日初めて資料見て、ここで話しましょうじゃないほうがいいかなとは思っています。

○末広副委員長 今日、今からこちらの申合せ事項も話し合って、宿題として会派で1回話し合っていていただいて、具体的な数字を決めていくという流れで今日はよろしいですか。

はい、ありがとうございます。

〔「1個追加でいいですか」と呼ぶ者あり〕

○末広副委員長 委員長、お願いします。

○寺岡委員長 3月定例会のときに、見直し、進捗状況の確認のタイミングでもあるんですが、一応4月から②に入る予定にはしています。イメージとしては、3月いっぱいぐらいまでに、うちの委員会での協議が済んでいる。要は、4月1日から実現するとかいうものではないと思います。ですので、ほかの委員会とか議長とかに投げておくというところまではいっておきたいなと。4月に改めてこのテーマで話し合うというのではないように、でき

るだけしておきたいというのが気持ちです。申し合わせにしても、方向さえ決まっておけば、令和6年4月1日に遡ってという適用の仕方も、力業ですけどできんこともないですし。あくまでうちの特別委員会の中の作業を3月がめどというふうに思ってもらえたらと思います。

以上です。

○末広副委員長 では、そのように進めさせていただいて、まず申合せ事項について、こちら書かせていただいたことを説明させていただきます。それを会派に持ち帰って話し合っていたら、どういう方針にしていくかというのを次に持ち寄って、また結論を出せればなと思いますので、よろしく願いいたします。

申合せ事項協議の資料1ページ目から説明させていただきます。

今回アンケートから抜き出して、3点申合せ事項に関わるころがあったんじゃないかなと思って、ジャンル分けして、3つに分けています。

1番目に、携帯電話のインターネット使用料について、何人か言及がありましたので、事例を調べさせていただきました。調べさせていただいた中で、赤字で私がほかの自治体の例を書かせていただいています。大竹市議会では、現状、2分の1で上限が3,000円だと思います。でも実際インターネットでかかる料金って、大体高くても6,000円ぐらいにはなると思うんですが、かなり回線速いようないい契約だと1万円超えたりもするんですけど、一般的に言えば6,000円ぐらいかなと思うので、2分の1で3,000円ってそこまで外れてはないのかなと思います。

携帯電話に関しては、上限が1,000円になってます。按分も9分の1で今計算されてるような状況で、なかなか実態と合わないというような声が多かったと思います。これも調べさせていただいて、大体3分の1が多いのかなと思います。上限も結構高めで、5,000円から1万円というところが多かったかなと思います。

すみません、インターネットと携帯電話一緒くたに書きちゃってるんで、分かりにくいところはあるんですけども、これについて何か御質問とかありますか。

実際、会派で現状を話していただいて、これぐらいが妥当じゃないかというのをを出していただければとは思いますが、それに踏まえて、何かこれ聞いておきたいというのがあれば、答えられる範囲でお答えはしようと思いますけども。判例に沿ってではあるんですけども、上限1,000円で9分の1というのは、なかなか見た限りなかったです。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、携帯電話を出したことがないので分かってないんですけど。今、9分の1の按分で上限1,000円だと、9,000円の請求があって初めて1,000円出るということですね。

○末広副委員長 合ってます。

○小田上委員 じゃ、今、上限1,000円を出してる議員はほぼほぼいないんですか。

○末広副委員長 いらっしゃいます。例えば、議長も年間で1万2,000円上げられているので、月1,000円で上げられてると思います。

小田上委員。

○小田上委員 何を引用してるかによるんでしょうけど、9分の1とした根拠があるのと、他自治体の事例の4分の1とか3分の1の根拠と大きくずれてるようだったら、何でそこまで違うのかなというのがもし分かれば教えていただきたいんですが。

○末広副委員長 大竹市は、判例に合わせてこの数字にしてると思うんですけども、ほかの自治体は、会派で説明できる範囲で、理由書等つけてくださいとあって、実際、領収書とかも調べさせていただいたんですけども、理由書ついてるの一つもなかったんです。基本的には、2分の1なり、4分の1で按分されてる自治体は多かったです。この3分の1、2分の1に理由があるかと言われると、なかなか調べた範囲では分からなかったです。

小田上委員。

○小田上委員 その判例って政務調査費から政務活動費に変わる前の判例ですか。

○末広副委員長 すみません、事務局何か補足ありますか。

局長。

○山田議会事務局長 3分の1や、9分の1という数字だけ聞かれると、乖離があるように思われるかもしれませんが、大竹市の場合は判例に基づいて、全体の電話料金のうち3分の1が議員活動に伴う使用で、さらにその3分の1が市政に関する調査研究活動分ということで、9分の1としています。

チーフが用意していただいた、例えば西宮市の例で言いますと、3分の1と書いてるんですけども、政務活動に要する費用以外は除外した後の3分の1とすれば、似たような数字になっちゃうということです。

割る前の定義のくくりが、最初から全体をひくくめた9分の1なのか、政務活動に関するものだけを取って3分の1としてるかというところで、数字は違いがあるように見えるかもしれませんが、比較的近い数字になるということで、大きな乖離ではないと思っています。

○末広副委員長 いろいろほかの自治体の領収書も公開してる場所は見させていただいたんですけども、結局、根拠としては、領収書の中の電話料金を2分の1、3分の1してる自治体が多かったように思います。面白いところは、本当に按分の数字具体的に書いてなくて、会派で説明できる分で7割按分してるところもありました。それをどういうふうに理由づけして、2分の1に、3分の1にするかというのはあるとは思うんですけども、実態としてはそんな感じだったと調べた中では思います。あまりこの議員活動はこれぐらいの割合なんぞという理由書をつけたようなのは、なかなか見受けられなかったですね。

小田上委員。

○小田上委員 ありがとうございます。

今、事務局からの説明だと、携帯電話の電話代、3分の1は議員として使ってるでしょ。その3分の1の中の3分の1が政務活動に使ってるでしょという考え方ですよ。

○末広副委員長 はい。

○小田上委員 でも、それと近いところもあれば、違うやり方をしてるところもあるというところで整理しておきたいのが、この携帯電話の料金の判決、平成19年ですけど、政務活動費の法改正が平成24年に行われてて、政務調査費から政務活動費に変わったんじゃない

いかな。なので、政務活動費として落とせるものの解釈と、政務調査費として落とせるものを解釈って多分変わってると思うので、そこで按分率というかが変わってるんだと思います。

なので、正直、この平成19年の判例に縛られる必要はないと思うんですけど、そこが分かってないと、会派に持って帰っても、どうしようもないやんになっちゃうので。そういう解釈でいいのかなと思うんですが、事務局もし分かってれば教えてほしいんですけど。

○末広副委員長 事務局、何かありますか。

お願いします。

○山田議会事務局長 確かに、政務活動費に変わってから幅が広がっているところはあると思うので、平成19年の3分の1というのが妥当な数字かというのは、もう少し幅が広がる可能性というのはあると思います。それをどこまで持っていくかというのは、また協議させていただけたらと思います。

○末広副委員長 そちらの情報を踏まえて、会派でどの程度が妥当かを検討していただいて、持ち寄っていただくという形でよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○末広副委員長 インターネット、携帯電話のところは今回は終わらせていただいて、次2番です。

A I活用、サブスクリプションサービス、あとLINEアカウントについて言及がありました。こちらについては、赤字で書かせていただけてますけど、サブスクリプションを直接言及している自治体は少なかったです。資料作成費にソフトウェアを書かれてる自治体は多かったんで、ここに含まれてるんじゃないかなと思います。これも領収書をいろいろ見て、いろんな使用実績があったので、使うこと自体は難しくないんじゃないかなと思います。実際、小田上委員はサブスクリプションサービスで、Adobeを半分請求してるので、ここについては、ちゃんと理由を説明できれば問題ないんじゃないかなと思います。これについて大竹市は、申し合わせにソフトウェア等の言及がないので、付け加えてもいいんじゃないかなと思います。それを付け加えるだけで分かりやすくなるんじゃないかなと思います。

資料に野々市市の例を書けてますけども、ソフトウェアのところで、「備品については、リースまたはレンタル契約とします。ただし、ソフトウェア等の利用については、サブスクリプション契約も認めます。」という書き方をされてて、同じような形で追加していけば問題ないんじゃないかなと思いますけども、いかがですかね。

こちらについて何か御意見ありますでしょうか。

ないようでしたら、数字では具体的に変わるところはないので、文言だけ追加させていただく方向で検討させていただければと思います。ありがとうございます。

3番、パソコン・スマホについての機器の一括償却です。4か年で計上する意味のところなんですけど、減価償却の考え方は、もともと企業の決算書上で経費の負担を減らす目的での考え方なので、政務活動費が少ないところはやっぱり一括で償却しちゃうと、金額の負担が重いということで、こういう考え方があると思うんです。ほとんどの自治体で大竹

市と同じような運用をされてますが、資料に熊本市の例しか上げてないんですけども、事務局にも調べていただいて、三、四つ市を上げていただきました。一括償却でき、任期が終わって議員から外れるようなことがあったら、そこで返還を求めるという運用方法もありました。ただ、基本的には政務活動費が多いところですよ。月に何十万もあるようなところだったら、負担にならないのでそういうことができるという。事務局で調べていただいたのも、ほとんど政令指令都市の例だったので、あまりこの運用については、大竹市はそぐわないかなと思ったりします。これ細川委員が書いていただいたと思うんですけども、認識的には一括償却をしたいという話ですよ。今の調査内容や私の話で何か思うところとかありますか。

○細川委員 私が疑問に思ったのは、減価償却の考え方で、パソコンとかだったら4年ですか。任期の残りがあと2年のときに、パソコンがどうしても必要になって、新しいの買い替えたりしますよね。だけど、議員の任期中はパソコンが必要だったかもしれないけど、任期が終わったらもう必要ない。けれども、その任期中の2年のために買わなきゃいけないというケースが起きたときに、減価償却すると、自分は議員辞めたからそのパソコンを誰かに返してということができればいいですけど、できませんよね。

今紹介していただいた中でも、例えば、途中で自分が議員じゃなくなったときには残りを返すと。減価償却の期間だけはいいいけども、残りの分を返しますよとなってくると、議員としての活動する期間にどうしても必要性があって買ったのに、議員という資格がなくなったら、その分のお金を返さなきゃいけないというのは、何か気分的に納得できないんです。そこ何か私が「あ、そうだね」と思える理由があるんじゃないんですけど、どうなんでしょうか。

○末広副委員長 議員を降りた以降のパソコンの使われ方ですよ。

山代委員。

○山代委員 パソコンを一括で落とすというのはどちらでも構わないと思うんですが、仮に20万のパソコンを買いました。一括でとなった場合に、その年、政務活動費がなくなると研修とか行けなくなりますけど、そこら辺の兼ね合いもあるんじゃないかなとは思いますが、いかがでしょうか。

○末広副委員長 任期残り2年でパソコン買いたいという話で、じゃああと2年しかないから一括償却して、もし、その2年後も返還しなくていいって話だと、すごく政務活動費の使い方が私利的だなと思わなくもないですね。

いかがですかね。

細川委員。

○細川委員 今のチーフのおっしゃることは確かにそう受け止められかねないので、やめたほうがいいかなと思いました。

取り下げます。

○末広副委員長 小田上委員。

○小田上委員 取り下げますと言われたところで、ちょっと踏み込みたいんですけど。按分のところで一番問題なのは、例えば、20万円出せばそれなりのものが今買えます。でも、

20万円で買いました。でも按分で2分の1を4年間かけてと言われると、本当に元手のない議員は、この20万円の物を買うことすらできない。選挙終わって返ってきた供託金で買えよってあるかもしれないですけど、やっぱりその元手がないと何にもできないですよ。その元手で使っても、按分でちょっとしか政務活動費に入れられないとなったときは、なかなかパソコン買うとか難しいよねとなるかもしれないなというのがあって。正直、10万円のパソコンなんて4年も使えないですからね。なのでどうなんだろうって思うところはあるんですが、これは仕方ないなと。なかなかなかなか言う機会がなかったの。いや本当10万円以下のパソコンって結構、しんどいと思いますよ。なので、しんどいんで元手が要るよなと思いました。

○末広副委員長 細川委員。

○細川委員 すみません、私引き下げると言ったんですけど、今の小田上委員の発言を聞いて、熊本方式で返すのもいいと思います。場合によっては、ほかのことに使えなくなるかもしれないけども、今年活動していくためにはこのパソコンをどうしても欲しいというケースもあると思うんです。議員でなくなった場合には、残り計算してお返ししますという。一括で買ってでもいいし、最初から4年間ででもいいしみたいに、自由度を持たせてもらえると、使える範囲が広がるような気がします。

○末広副委員長 使える幅を持たせるというのは、考え方としてありだと思います。

実際、両方で運営してるってあんまり見たことはないんですけども、あと例えば幅をもっと持たせるってなると、4年で償却と考えて、最初の1年で2年だけ償却していただくというような、例えばそういう柔軟性を持たせることができるのかということころは、もう正直、事務局の手間が増えるかなということころにはなってくるので、それが現実的なのかどうかというのは、そこまでやって幅を持たせることがいいのかどうかというのは、ちょっと一回、事務局と相談させていただければと思いますが、いかがですかね。

事務局は何かこれに関して御意見とかって何かありますか。

局長。

○山田議会事務局長 いろんなやり方があって、御事情もいろいろあると思うので、いろんな幅があるほうがいいなというのはよく分かりますが、1つだけ懸念しているのは、前もって償却した場合に、何かがあって、悪意があるかないかは別にして、お金が返ってこなくなることが出なきゃいいかなというのはすごく懸念してます。

○末広副委員長 そのリスクは一応含んで考えないといけないというのは確かにありますね。山代委員。

○山代委員 今の話とちょっとそれるんですけど、後学のために教えていただきたいんですが、10万円以上のパソコンを買いました、4年で償却します。3年目で壊れて、4年目新しいパソコンを買った場合、4年目の分ってどうなるんでしょうか。単純な疑問です。

○末広副委員長 こちらの質問については、後でまた事務局に直接聞いていただいたほうがいいですかね。

取りあえず、今日はこの3点にしようかと思います。もし、今後あるようだったら、相談していきながら、それを委員会でお話できればなと思います。今日のところはこの3点

で終わらせていただこうと思いますが、いかがでしょうか。

委員長。

○寺岡委員長 ごめん、この3つを選んだのはいつじゃったっけ。前回の会議でこの3つにしますという流れでしたっけ。

○末広副委員長 いいえ。私が申合せ事項について、何か例がないかという宿題いただいていたので、どこについて話し合うかというのはアンケートから抜き出して、私が判断させていただいています。

○寺岡委員長 メモを見ても、ちょっとこれら3つが特筆されてるわけじゃなかったんで、恐らくアンケートからだなと思ったんですが。であれば、委員と委員外との差別化がなっていないと。我々のこの会議、このメンバーでいろいろ提案したり協議したりするところと、もう少し欲しいなと思うんですね。確かに、アンケートで皆さんから聞いたら、それはもちろんそうなんです、じゃ委員会開かんでいいじゃないかという話にもなってきますので、やっぱり気づきがあれば、この3つプラスアルファをここの場で、テーブルの上に上げるべきじゃないかなと思いますんで、そのあたり御配慮いただけたらと思います。

○末広副委員長 小田上委員。

○小田上委員 このアンケートから3つ出していただいたプラスで、アンケートの中でほかののもあると思いますし、会派の中でもあると思います。ただ、これどうだろうみたいな問題提起だけだったら、結構早めに出せると思うんですね。なので、こういうものがありましたみたいなのは早く出してもらって、会派で政務活動費の話もするタイミングをつくらないといけないので、そこに間に合うような形で先にチーフ宛てに提出してもらったほうがいいかなと思います。

○末広副委員長 小田上委員の言った方向でいいのかなと思いますが、どうでしょうかね。宿題として出させていただいて、何かあればこの期限までに提出してくださいという形でよろしいですか。

小田上委員。

○小田上委員 ここの委員のメンバー構成が各会派からということなので、お願いしても大丈夫じゃないかなと思ったんですが、いかがでしょうか。

○末広副委員長 じゃ、すみません会派ごとに意見まとめていただいて、私に提出していただく方向性でやろうと思います。

それでは日程2を終わり、今後の予定で今の話もさせていただこうと思います。次の会議をいつにするかで、提出日も変わってくるかと思うしますので、次の会議をいつにしましょうか。

〔「分離してやってもいいし、一緒にやってもいいし」と呼ぶ者あり〕

○末広副委員長 3月4日に定例会があるので、そこに合わせて意見を集約させていただくほうが話は早いのかなと思いますけど。本会議前の28日とかでも大丈夫ですか。会派で意見集約していただいて私に連絡いただくということは可能ですか。

小田上委員。

○小田上委員 本会議の前日って事務局めっちゃくちゃ忙しくないですか、大丈夫ですか。

○末広副委員長 私のところに、情報集約したものを送っていただくというだけの話なんで、そこまで手間はかからないと思うんですけども。大丈夫ですか。

はい、ありがとうございます。

モデルについてと申合せ事項のところ、その他にあるかどうかを話し合っていて、28日までに送っていただくというのを皆さんの宿題にさせていただければと思います。

小田上委員。

○小田上委員 28日に申合せ事項の、今3つ話した方向性を上げるということですよ。だったら、そのプラスアルファのやつはどう考えるかというのを話す機会がなくて、それだけ遅くなっちゃうんで、プラスアルファの分だけは例えばですけど、もうちょっと早くとかのほうがよくないですか。次、ほかの議題が出て、会派の意見は持ってないが、この場で話すということになってもいいんだったらいいんですけど。あんまり持って帰る意味が薄くなるんじゃないかなと思うんですけど。

宿題の提出だったら、今申し合わせ3つの金額とかそういうのをこうしたらいいんじゃないかって案を出す日ですよ。

○末広副委員長 プラス、その他のところも。

そのほかにあれば、それも提出して、4日までに私が資料を用意させていただこうかなと思ったんですけど。

○小田上委員 意見を持ち合わせてないまま来ることにならないようにしたほうがいいのかなと思ったんですが。その他で出たものに対しての意見を持ち合わせてないまま来ると、4日のときに、その他の意見で出たものは深まらずに、また宿題にしようになるじゃないですか。今から何が上がってくるかその他は分かんないで、4日までに会派でまた見といてねにするのか。

○末広副委員長 もちろん分かりませんので、28日までにまとめさせていただいて、私が今回みたい資料を用意して、4日に話し合うって話ではなくてですか。

○小田上委員 4日に話し合うときに、今日上げてもらった3つは、会派としての意見がある程度ある状況で話し合えるじゃないですか。でも、プラスアルファで出たものに関しては、出したところしか意見を持ってない状態に来るのが、また会派の意見を持ってきましようとかってなるんで。

○末広副委員長 理解しました。

委員長。

○寺岡委員長 心配されるのは分かりました。次の日、本会議で全員来るんで、情報提供したらいいんじゃないかなと思います。

○末広副委員長 では、28日までにこちらで取りまとめて、事例はそこまで間に合わないと思うんですけど、こういう意見が上がってきたっていうのを29日に共有できると思いますので、その方向で進めさせていただければと思います。

細川委員。

○細川委員 委員長がいろいろ資料を調べるいとまがないということなので、できるだけ会

派として検討していただきたいという意見を出すときに、皆さんに理解していただけるような資料まではいかないかもしれないけど、理由づけをしっかりとつけて出すと。これこれこれについてだけみたいなのは出さないということによろしいでしょうか。

○末広副委員長 大変助かります。お願いいたします。できれば、ほかの自治体の事例等も併せてつけていただけると大変助かります。

では、今日のところは以上にさせていただこうと思いますが、大丈夫でしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○末広副委員長 では、政務活動費について、今日のところは終わらせていただきます。ありがとうございました。

○寺岡委員長 末広チーフ、長時間御苦労さまです。

少しずつ進んできている部分も出てるかなと。まだ、概念的なところの意見交換で、目に見えてない部分もありますが、4月にはまた次のテーマが協議できるように、進めていければということになります。山代チーフと末広チーフには、皆さんからの協力をいただきながら、いろいろ進めていただかんといけませんよろしくお願いします。

間もなく3月定例会が始まりますけれども、議員の仕事は当委員会の仕事だけではありませんので、ほかの委員会とか議員活動とバランスを考えながらやっていただければと思います。

では、次は3月4日特別委員会の日という予定になっております。それぞれ準備を引き続きよろしくお願いします。

では、以上で議会のあり方調査研究特別委員会を終わります。どうもありがとうございました。

14時49分 閉会